

公共工事等における新技術活用システム  
事後評価結果通知書

国部整施企第 130-22 号  
平成 29 年 1 月 18 日

透水性レジンモルタルシステム工法協議会  
渡辺 雅夫 殿

国土交通省  
中部地方整備局長 塚原 浩一

平成 19 年 2 月 13 日付をもって申請のありました技術について、新技術活用評価会議における評価の結果を様式 V-5 のとおり通知します。なお、評価結果については NETIS に掲載します。

記

1. 技術名称：PRMS 工法
2. NETIS 登録番号：HR - 990098 - V
3. 評価結果：様式 V-5 のとおり
4. 継続調査等の必要性について：継続調査等を必要としない
5. その他：この結果に基づき、当該技術の NETIS 登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、掲載期限が当初に NETIS 登録した翌年度の 4 月 1 日から起算して 10 年を経過した日まで延長されます。  
また、今後の活用効果調査、事後評価は実施されません

異議申し立てについて

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日の翌日から起算して 10 日以内に整備局長あてに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申し立てを行うことができます。

(提出先)

国土交通省中部地方整備局  
新技術活用評価会議事務局

# 活用効果評価結果

公開版

平成28年度

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	耐久性の向上、安全性の向上、品質の向上																						
	新技術登録番号	HR-990098-V	区分	工法	有用な技術の位置づけ	なし																		
	分類	舗装工 - 特殊舗装工 - 特殊舗装工 - 車道舗装工																						
	新技術名	PRMS工法																						
	比較する従来技術(従来工法)	排水性舗装																						
	新技術の概要及び特徴	排水性舗装の空隙に高強度のレジンモルタルを擦り込む工法、排水性舗装のすべり抵抗向上、カラー化、空隙つまりの抑制、耐久性の向上が期待できる工法です。																						
活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・表層表面部分にレジンモルタルを充填することにより、骨材の飛散及び空隙の詰まり抑制に優れ、品質・出来形の向上が図られている。																						
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。																						
	留意事項	・該当なし																						
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし																						
活用効果調査結果	対象工事	1	舗装工事	(従来技術)	排水性舗装	)	施工者希望型(契約後提案)																	
		2	舗装工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		3	舗装修繕工事	(従来技術)	排水性舗装	)	施工者希望型(契約後提案)																	
		4	舗装工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		5	舗装修繕工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		6	交通安全施設整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		7	維持修繕工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		8	交通安全対策工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		9	交通事故対策工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		10	舗装補修工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		11	舗装補修工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		12	交通安全施設整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		13	路面整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		14	路面整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		15	電線共同溝工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		16	事故対策工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		17	歩道整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
		18	歩道整備工事	(従来技術)	排水性舗装	)	発注者指定型																	
活用効果調査結果	項目	ケース番号および年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
		経済性	A	B	C	D	C	D	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	D	D	D	C	
		工程	C	D	D	D	D	D	C	D	C	C	C	D	D	D	D	D	C	C	C	D	D	C
		品質・出来形	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	C	B	B	B	B	B	C	B	C	B	B	C
		安全性	B	A	C	C	C	C	B	C	B	B	C	B	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C
		施工性	D	D	D	C	C	C	B	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C	B	C	C	C	C
		環境	A	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C
		その他																						
		総合評価点	B	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C
		今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい	活用を検討したい	場合によっては活用することもある	技術の改良を強く望む	各項目における判定 A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る																	
追跡調査の必要性	不要																							
追跡調査	-																							

